

令和3年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書（前期）

令和3年8月17日作成

校長 浅利 司

記述者 教頭 浅利 進

学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中学生の育成」

- ・強い体と心をつくる（心身の調和的発達）
- ・すなおに見聞きし、考えて行動する（素直さ、考え意見を持つ力、実践力）
- ・美しいものを愛し、自分で創りだすよろこびを知る（本物・本質志向、創造力）
- ・働くことを好み、力を合わせてがんばりぬく（貢献、協働、努力、粘り強さ）

取組重点

- 1 学習意欲と確かな学力の向上
 - ①授業規律の徹底
 - ②山梨スタンダードの視点と各種調査結果の分析に基づく授業改善
 - ③定期テストへの取組の充実
 - ④補充発展の時間の効果的な活用
 - ⑤家庭学習の充実
- 2 生徒会活動における「4つのこだわり」の充実・推進
 - ①気持ちの良いあいさつの推進
 - ②無言清掃のさらなる推進
 - ③活動開始・終了時刻の徹底と下校の呼びかけ
 - ④さわやかな身だしなみの徹底
- 3 新学習指導要領の確実な実施と小中一貫教育に向けた取組の推進
 - ①新学習指導要領の実施と検証
 - ②9年間を見通した教育課程の作成
 - ③小中合同研修等の推進

I 全体評価

※A：5点，B：4点，C：2点，D：1点と数値で換算し，平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価について考えていきたい。なお，生徒アンケートについては平均4.0を目標とした。

全20項目中13項目が目標を上回る結果となった。得点分布に関しては以下のとおりである。

- 4.5以上：13項目，4.4以上4.5未満：3項目，4.3以上4.4未満：1項目
4.1以上4.2未満：1項目 4.0以下：2項目

総合的な平均が4.6を得たことは，教職員の各々の実践が高い水準を保っていると評価しているといえる。学習において，新学習指導要領の実施に伴い，授業への工夫や評価についてはこれまでよりも丁寧に行う必要がある。また，昨年度よりもやや状況は緩和されたとはいえ，今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策のため，毎日の健康観察や授業への取り組み方については，工夫が必要となる。本校の教職員は，より多くの条件の中で最適なものを常に検討しながら教育活動を進めているといえる。

課題となっているのは，生徒の家庭学習の定着，授業へのパソコンの導入，部活動の指導である。家庭学習の定着は長年取り組んできた課題である。昨年度より週末課題（タイアップ・チャレンジ）の取組を行い成果も上がっているが，日常的な家庭学習の時間の確保については依然検討していく必要がある。パソコンの導入については，文部科学省のGIGAスクール構想から，本市でも小中学校に1人1台端末が整備され，この4月より授業への使用がスタートした。教職員の研修も進んでいるので，今後も工夫改善がなされていくと考える。部活動の指導については生徒との関わりやその競技等の結果，教科等とは違う専門性など課題は多い。今後も協議検討していく部分があると思われる。

自覚のある職務への取組，生徒の健康安全の能目はいずれも4.9で，本校の教職員は真面目で職務に対して積極的に取り組んでいると考えられる。日々検討課題や，改善すべき事案があるが，全教職員が共通理解の中，生徒のためにきめ細かな教育活動に取り組んでいきたい。

II 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ◇領域平均は4.7であり、教職員は互いの協力体制のもと、学校教育目標の具現化に努力しているといえる。 ◇職務上の報告、連絡、相談、確認をきちんと行い、職場相互の信頼関係も良好である。 ◇校務分掌や各種委員会等への取組意識は高く、多くは達成度が高いと考えられる。 ◇「重点目標の取組」については平均4.4でやや低くなっているが、感染症拡大防止のため、活動が制限されている項目もあり、取組に難しい内容もある。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが学校経営方針（教育重点目標）を十分に理解し、前年度の成果と課題にもとづいた教育活動を生徒の実態に応じて相互に連携しながら推進していく。 ・学校全体の教育活動に対して、組織的に取り組めるように各自の意識を高め、共通理解の中で検討・改善を行っていく。 ・山梨県より出された「働き方改革のガイドライン」を参考にし、各自が勤務効率を考えた働き方について意識を高める。また、管理職が教職員のメンタルヘルスについて細心の注意を払うよう心がけ、同僚性・協働性のある職場の構築に心がける。
2 教科指導	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ◇領域平均は4.2で、昨年度同時期よりやや低い。教科指導については今年度より施行された内容が多く、これまでよりも改善していくべき課題が多いと考えられる。 ◇教師アンケート⑤「新学習指導要領を踏まえた授業改善や学習評価」は目標値よりも低い新しい学習評価に向けた授業改善を行っており、校内研究の内容と合わせ、研究を進めている。同様に、生徒アンケートの授業の領域の評価、特に「授業の楽しさ」「授業の分かりやすさ」においては、いずれもやや低下している。 ◇今年度は市の「学びの質を高める授業づくり推進事業」を受けており、分かりやすい授業の工夫や、新しい取組に向けて努力をしている。 ◇教師アンケート⑦「家庭学習の定着」においては、昨年度より0.2ポイント下がっている。昨年度より開始した週末課題の取組は定着しており、成果も上がっている。生徒も週末課題の取組について肯定的回答が96%を超え、習慣化されていることが分かる。ただ、20%強の生徒は、それ以外の家庭学習についての取組が定着されていないことが読み取れ、特に基礎学力の定着については今後も検討する必要がある。 ◇教師アンケート⑧「授業へのパソコンの導入」については、普段の生徒の使用率も上がり、だいぶ使用には慣れてきたとはいえ、まだまだ授業に使用していくには教師の研修も少なく、部分的に使用するにとどまっている。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いまだ終息しないコロナ感染症への対策を意識し、「新しい生活様式」を踏まえた分かりやすい授業の改善、自ら課題を解決しようとする生徒の育成を目指し、校内研究の中で研究・研修を深めていく。 ・未だに教科研究の交流の場は少ないと考え、通信方法を工夫しできるだけ各校での授業の指導方法の共有が図れる交流を行うようにする。 ・管理職による日常的な授業観察を通して、指導・助言を継続して行う。 ・一人一実践の授業提案を通して、各個人の授業力の向上を図る。また、必要に応じて同僚の授業を参観し、自分の授業にいかすとともに、同僚の授業力向上に貢献できるような助言をする。 ・今年度より導入した1人1台端末の授業への活用方法を教科ごと研究し、できるだけ場面ごとに使用する機会を増やしていく。今後、「家庭で行う学習課題」についてオンラインで行えるように研修も進めていく。 ・週末課題としての、「タイアップ・チャレンジ」を継続し、家庭学習の時間の確保と、習慣化について粘り強い指導を行う。また、生徒の連絡帳（やりとり帳等）や定期試験の学習計画表の取り組み表を活用して計画的に家庭学習を進めるように指導する。

3 生徒指導について	
達成状況	<p>◇平均得点は4.7で、組織的な対応についてよく取り組んでいるといえる。教師アンケート⑨「問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決」の項目の評価は、各担任・学年・生徒指導・部活動顧問等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。ただ、生徒アンケート③「困ったときに相談できる先生」の項目は18%弱の生徒は否定的回答となっており、学校で把握できないで悩んでいる場面もあると考えられる。</p> <p>◇生徒アンケート③は今年度相談できる人を「先生」に変更した。昨年同時期と比べると0.2ポイント低い結果となった。友人との相談の中で解決したり、自己解決している場面もあると考えられるが、内容によっては教師も把握しておく必要はある。</p> <p>◇不登校等のケース会議を関係機関と連携して定期的に行い、生徒・保護者の願いを丁寧に聴き取るよう心がけた。校内でも生徒支援会議を定期的に関き、各学年での支援する必要がある生徒について確認している。</p> <p>◇大きな問題につながる生徒指導がなく、未然防止の取り組みができた。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に各学年の生徒の状況を共有し、精神面や家庭環境等についてその行動から分析し学校としてのきまりや指導重点について教職員が共通理解のもと、生徒の指導を行う。 ・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、道徳や特別活動の取組から、心の教育を充実させたい。 ・本校では「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。今後も報告・相談・記録などを丁寧に言い、必要に応じて関係機関とも連携していくようにする。 ・小学生時期からの人間関係についても引き続き見取り、その関係改善や他の生徒との係わりを大切にする。生徒の連絡帳の記述や、悩みごと調査の実施やその後の面談等により、相談できる体制は整え、さらに生徒とのコミュニケーションをとっていくようにする。
4 特別活動	
達成状況	<p>◇教員のアンケート結果は⑫「生徒の自治力の向上を目指し、計画的な指導を行っている」が目標とした4.4となり、目標値をやや下回った。しかし、生徒アンケートの⑨「行事への協力」⑩「合唱活動への意欲」については、肯定的回答が96%を超え、生徒たちが意欲をもって行事への活動を行っていることが分かる。</p> <p>◇今年度は合唱や部活動等も取組を工夫しながら例年通り行うことができた。合唱の指導は難しい面もあり、音楽教師を中心に行うことが多く自己評価として低い面も見られるが、生徒の合唱への意識が高く、今後も本校の伝統としての取組を行っていききたい。</p> <p>◇教師アンケート⑬「部活動の指導」は評価が低く、生徒の技能を高めるための取組については、専門性もありませんなかなか改善しにくい面もある。授業以外に学年を越えた生徒活動を行う日常的な場面なので、生徒の健康安全面に注意しながら意欲を引き出し、結果のみにこだわらず、取組経過に自信を持たせるような指導をしていきたい。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も保護者の参観場面を設定することができなかったが、多くの行事を例年通り行うことができた。3年生を中心に全校的な自主性の育成に成果が上がったといえる。今後も感染症防止対策を行う中で、日常的な生徒活動を大切にしていきたい。 ・今年度も最大行事である学園祭（桃響祭）は縮小傾向だが、1学期に行われたいくつかの行事や、日常的な取組によって、生徒が主体的に取り組むことができた場面がおおかった。特に清掃については3年生を中心に、主体的な活動を育成する場となったように思う。生徒一人ひとりが「今何をすべきか」という社会の一員として考えることができる取組となっている。今後も生徒の主体性を引き出す取組を計画的に工夫していききたい。生徒会本部・学年生徒会・学級役員を中心に、自治的活動の基本となるような取組としたい。 ・今年度部活動の大会は、感染症予防対策に力を入れ、例年通り行われた。これまで同様毎週月曜日を「部活動なしの日」とするとともに、月に2回の割合で、月曜日は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」とし、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後も、これら部活動の負担軽減計画を確実に実施していく。

5 健康安全 信頼される学校	
達成状況	<p>◇平均得点は4.8で目標数値を大きく超えている。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策は、安全で安心な学校生活を送るために丁寧に行っている。そのため、「生徒の健康安全」や「新型感染症防止対策への取組」については非常に意識が高く、生徒への指導もきめ細やかに行っていることがわかる。また、校舎の設備の整備についても意識が高いが、危険を予測する中で、環境整備を行っていく必要がある。</p> <p>◇新型感染症防止対策に対する生徒への指導は丁寧に行うことはもちろん、熱中症対策や通学路の安全確保、登下校指導等きめ細かく指導を行った。</p> <p>◇不審者情報や非常変災に備えて学校安心メールに全家庭が登録している。今年度は県や市の教育委員会からのやの指導も含め、メールやホームページの活用をし、家庭に状況を素早く伝え、不安や不明な状況が無いよう努めた。今後も危機管理を強化していくことに加え、保護者にとって必要な情報を迅速に提供するよう心がけていきたい。</p> <p>◇「健康安全」「信頼される学校」の領域はすべての領域の中でも最も高い評価となった。全教職員が生徒にたいして意識を高くし、生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導を行うよう心掛けていることがわかる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行ってきているので、さらに注意深く取り組みたい。 ・まだしばらく続くであろう「新型コロナウイルス感染症」への対策は、状況ごとに臨機応変に対応し、生徒への教育活動を充実させていく。そのために、互いに協力・理解し合い指導を進めていく。 ・生徒への見取りをきめ細かく行うことが、様々な問題を未然に防ぐことだということを認識する。 ・リスクの先にある重大事態＝危機（クライシス）を想定し、学校事故の未然防止について組織的に共通理解する。 ・部活動の指導について、様々な場面を想定し安全対策を検討していく。 ・「学年便り」「給食・保健・図書・進路だより」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに、「やり取り帳」「悩み事・心配事調査」等を通して家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。